

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決 算 特 別 委 員 会 環 境 厚 生 分 科 会	会 議 場 所	第 1 委 員 会 室
		担 当 職 員	小 野
日 時	令 和 2 年 9 月 17 日 (木 曜 日)	開 議	午 前 10 時 00 分
		閉 議	午 後 4 時 41 分
出 席 委 員	◎並河 ○大塚 長澤 富谷 平本 三宅 小松 西口		
理 事 者 出 席 者	【市立病院】玉井病院事業管理者、松村管理部長 [病院総務課] 土岐課長、山下係長 【こども未来部】高橋部長 [子育て支援課] 森岡課長、酒井係長、川田係長 [保育課] 阿久根課長、中川政策担当課長 【健康福祉部】河原部長 [地域福祉課] 佐々木課長、中野副課長、田端副課長、的場係長 [障がい福祉課] 木村課長 [高齢福祉課] 山内課長、山口副課長、木村副課長、松本副課長 [健康増進課] 大西課長、中村副課長、中山副課長		
事 務 局	山内事務局長、小野主任		
傍 聴 者	市 民 0 名	報 道 関 係 者 0 名	議 員 0 名

会 議 の 概 要

1 開会

2 事務局日程説明

3 付託議案審査

(1) 第 15 号議案 令和元年度亀岡市病院事業会計決算認定

<病院事業管理者>

(概要説明)

<病院総務課長>

(資料に基づき説明)

～ 10 : 11

[質疑]

<平本委員>

直近で更新が必要となる医療機器は何か。

<病院事業管理者>

顕微鏡を今月の1日から使用を開始しており、電子カルテを12月に更新したいと思っている。今後の見通しとして、MRIのメーカーサポートが終了することから、1年から2年以内には更新したいと考えている。2年前に臨床工学技士を採用したことによって、機器の管理などをより適切にできるようになった。

<平本委員>

看護師など人材の確保はできているか。

<病院事業管理者>

民間の病院で対応できない部分を公的な病院がカバーするということが必要であるが、看護師を含め128人の定員に対し、127人で体制を組んでいる。一方で常勤を希望しているが、現時点では非常勤で勤務していただいている薬剤師や看護師もおられ、医療の充実や収入増を図るため、今後そういった職員の常勤化を目指し、改めて定員の増加について提案させていただくことも考えている。

<長澤委員>

退職給付費は、毎年5000万円程度と説明があったが、今回は800万円ぐらいであるのは、人員構成などが理由か。

<管理部長>

平成26年に大きな会計制度の改正があり、退職手当引当金を積むことが義務化され、一時金として2億5000万円を積み上げる必要があったが、5000万円ずつ積み上げを行い、必要額を確保できたことから、今回は令和元年度の必要額として800万円を積み上げている。

<小松委員>

これまで医師の確保に苦慮していたが、現在は人材を確保できているのか。

<病院事業管理者>

充足しているとはいえないが、利益を考えると確保できていると考えている。

<小松委員>

開院してから16年経過しているが、老朽化などによって施設を補修する必要があるか。

<管理部長>

空調設備などは、随時修理、交換している。どこが故障などをするかは様々であるため、一定の予算を確保している。一定の時期に大幅な改修が必要であると考えている。

<富谷委員>

在宅介護支援とはどういうものか。

<病院事業管理者>

例えば、通院が難しい末期癌の患者の看取りや、同様の入院患者で自宅に帰りたいと申し出があった方などに対し、経験のある技術の高い看護師が自宅に訪問しケアするという制度である。

<並河委員長>

病院事業管理者の経営方針は。

<病院事業管理者>

よい医療の提供は、どのような情報発信よりも効果的であると考えている。患者に寄り添った説明や対応を継続していける職場を作っていきたいと考えており、ホームページも同様に内容の充実を図っていきたい。また医療機器の充実はよい医師の確保に繋がるとは思っているため、その部分について考えていきたい。今の状況だけで5年後や10年後が安泰とは思っていないので、次の手法について努力を続けていきたい。

～10:54

[理事者入室] こども未来部

(1) 第6号議案 令和元年度亀岡市一般会計決算認定(こども未来部所管分)

- <こども未来部長>
(概要説明)
- <子育て支援課長>
(資料に基づき説明)
- <保育課長>
(資料に基づき説明)
- <保育課政策担当課長>
(資料に基づき説明)

～ 11 : 16

[総務費]

- <富谷委員>

青少年住民活動補助金は23団体に対し、25,000円から58,000円を支出しているという説明であったが、どのような活動を行い、どのような効果があったのか。

- <子育て支援課長>

それぞれの地域で内容を工夫しながら取組を実施されている。例として亀岡地区であれば、陶芸教室や夏休み世代交流餅つき、親子凧作りなどを実施されている。

[民生費]

- <平本委員>

母子寡婦福祉会の活動費補助金は、どのような活動を対象としているのか。

- <子育て支援課長>

現在、加入者108人で活動されており、96,000円の補助金については、情報交換を行うための交流会や研修会、母子寡婦福祉会の運営経費である。

- <平本委員>

96,000円で活動は進んでいるのか。

- <子育て支援課長>

補助金を減額した経過はあるが、母子寡婦福祉会では会費を徴収されており、潤沢とはいえないが、この補助金額で活動されている。

- <平本委員>

コロナ禍で収入が減っていく中、事業の内容を変えていくとともに、事業を充実させる必要があると思うがどうか。

- <子育て支援課長>

ひとり親家庭は貧困率が高いと言われている中、交流会はどのような制度を活用したか、どのように資金をやりくりしたかという、貴重な情報交換の場であるが、コロナ禍で中止となっており、それに伴う情報不足にならないよう、SNSの活用などの情報発信の方法を検討している。

- <平本委員>

こども医療費助成のニーズ調査や検証は行っているか。

- <子育て支援課長>

調査は行っていないが、窓口などではよい反応が多いと感じている。

- <西口委員>

同じ経費で前年度比は。

<子育て支援課長>

制度拡充によって、1億9503万8191円の増であり、特段の事情があったものではなく、制度拡充によるものであると分析している。

<小松委員>

保育士の給与は、他市と比較してどうか。

<保育課長>

数年前に調査した際には、亀岡市は高い状況ではなかった。今年から私立保育園に就職される方に対し奨励金を支給しており、処遇の面を支援しながら、民間保育園と連携し保育士を確保していきたい。

<富谷委員>

延長保育料の金額は各園で決めているのか。

<保育課長>

私立保育園では、それぞれの園で金額を決めている。

<富谷委員>

病児・病後児保育事業を保育所で行う内容と病院で行う内容の違いは。

<保育課長>

この事業の体系として、医師がいる環境で行うものと、保育所で行うものがあり、保育所で実施する場合は、保育中に熱が出て、保護者が迎えに来られない場合などに実施するものである。また、保育所で実施する場合には看護師を置く必要がある。

<三宅委員>

Bcomeフェスタでは、ワンストップですべての手続きができるとのことであったが、円滑に進んでいるか。

<子育て支援課長>

概ね良好な意見をいただいている一方で、戸籍や住民票を取るために本庁舎へ行く必要があり、不便であるという意見もある。

<平本委員>

ひとり親家庭生活支援相談事業の委託団体は。

<子育て支援課長>

委託団体は、亀岡市母子寡婦福祉会と亀岡市FCNクラブ（父子会）の2団体である。

<平本委員>

以前からこの事業を利用しにくいという意見があるが、窓口となっている委託団体へ、この事業が利用しやすくなるような手法などについて聞き取りを行っているか。

<子育て支援課長>

母子寡婦福祉会では、近年、若年層の母親に来てもらえるような取組を中心に進められている。

<平本委員>

自立支援教育訓練給付金、高等職業促進給付金を有効活用して、本人のスキルアップを図り、安定した収入に繋げることで自立していただくため、さらに使いやすい制度とするべきであると思うがどうか。

<子育て支援課長>

この制度は、ひとり親家庭を自立させるために効果的であると考えており、使いやすさについて、国や京都府への要望も含めて対応していきたい。

<大塚副委員長>

障がい児保育経費について、民間保育園・民間認定保育園に教室を増やし、専門的に障がい児に対応する保育士を雇用するというのか。

<保育課長>

特別な教室はなく、支援が必要な際に加配の保育士が関わっていくという内容である。

<大塚副委員長>

予算の主な内容は。

<保育課政策担当課長>

支援員に対する人件費について補助を出している。

<大塚副委員長>

何施設が対象となっているか。

<保育課政策担当課長>

9施設である。

<大塚副委員長>

障がい児というのは、どの程度の方まで含まれるのか。

<保育課政策担当課長>

重度の場合は、特別児童扶養手当を受給されている児童、中軽度の場合は支援判定された児童である。

[衛生費]

<小松委員>

発達支援事業経費に臨床心理士2人分の報酬があるが、発達相談や観察を行った結果、発達障がいなどの疑いがある場合は、医師の相談まで繋げていくのか。

<子育て支援課長>

最終的には、医師や専門的な機関に繋げることになるが、保護者のニーズに応じて療育教室や京都府南丹保健所に繋げている。

[教育費]

(質疑なし)

[歳入]

<小松委員>

滞納分の保育料は、どのように徴収しているのか。

<保育課長>

保育料は、原則口座振替とし、それによって年々収納率は上がっている。いかに保育所へ通っている間に徴収するかということに力を入れている。滞納者に対して、催告書や督促状を送付したり、分納誓約をもらっている。それでも連絡がない場合は、財産調査のうえ、預貯金や給与の差し押さえを行っている。

～12:42

<休憩 12:42～13:30>

(1) 第6号議案 令和元年度亀岡市一般会計決算認定(健康福祉部所管分)

- <健康福祉部長>
(概要説明)
- <地域福祉課長>
(資料に基づき説明)
- <障がい福祉課長>
(資料に基づき説明)
- <高齢福祉課長>
(資料に基づき説明)
- <健康増進課長>
(資料に基づき説明)

～14:40

[総務費]
(質疑なし)

[民生費]

- <西口委員>
敬老乗車券の件数は、延べ人数か。
- <高齢福祉課長>
延べ人数を記載している。
- <西口委員>
1人で3冊以上購入したいという声はないか。
- <高齢福祉課長>
毎年そのような要望をいただいている。敬老事業補助金の見直しに伴う財源の再配分という経過があるため、地域間格差がある中で、地域公共交通と連携しながら進めていきたい。
- <富谷委員>
ひきこもりの方の把握と支援について、これまでの経過は。
- <地域福祉課長>
社会的孤立防止対策事業だけではなく、生活困窮者自立支援事業においても重要な問題であり、社会福祉協議会でひきこもり家族教室を述べ5回実施したところ、当事者が24人、家族が8人参加した。地域福祉課でも、徐々に相談件数が増えていると感じている。
- <小松委員>
社会福祉協議会の事業では、就労支援まで行っているか。
- <地域福祉課長>
就労まで繋がった件数は少ない。50歳で1度も就労されたことがないような方で就労に必要な経験を補うのは難しいが、意欲がある方には就労準備支援という事業があり、農業体験のような支援に通っている方もいる。
- <小松委員>
セーフコミュニティの事業にも自殺防止対策があるが、その事業との関連は。
- <地域福祉課長>
これは、セーフコミュニティ自殺対策委員会が実施する経費である。
- <小松委員>

子どもに関する相談で最も多い内容は。

<地域福祉課長>

この内容は、民生委員が日々受けた相談である。特に傾向があるわけではないが、民生委員の活動で子どもに関する内容が多いため、それに比例して子どもに関する内容が多くなっているものである。

<長澤委員>

社会福祉協議会の収入には、こういったものがあるか。

<地域福祉課長>

デイサービス事業を除くと委託料、人件費の補助金と会費収入がある。

<長澤委員>

生活支援体制整備事業で人件費が計上されているが、生活支援コーディネーターは、こういった業務を行う職員か。

<高齢福祉課長>

各自治会の訪問や集いの場、通いの場の調整をされている。

<大塚副委員長>

障がい児給付金の前年度比は。

<障がい福祉課長>

前年度比1, 113, 788円、8.1%の増である。

<大塚副委員長>

放課後等デイサービスの設置基準は年々増加しているが、施設数などの制限はあるか。

<健康福祉部長>

放課後等デイサービスの需要は増加しており、亀岡市では障がい福祉計画に基づき、令和2年度までの目標数値を設けているが、施設数までは設けておらず、施設整備については事業者と京都府の間で相談して決定されており、市は関与していない。

<大塚副委員長>

療育を必要とする児童とは、どのように決められるのか。

<障がい福祉課長>

保健センターで実施している検査時に保健師が状況を判断している。

<小松委員>

毎年、災害ボランティアセンター運営経費として10万円の予算が計上されているが、近年災害が増加する中で予算は足りているのか。

<地域福祉課長>

これは災害がない場合の予算であり、災害ボランティアセンター運営委員会の運営や研修会の経費である。災害が起きた場合には、別途予算を計上することになる。

[衛生費]

<平本委員>

公衆浴場について、法整備の関係で仕方ないのかもしれないが、亀岡市内では、対象が1法人だけであるため、この事業を見直すべきであると思うがどうか。

<健康増進課長>

この経費は、公衆浴場の確保のための特別措置に関する法律に基づいて実施しており、継続していく方向である。

[労働費]

(質疑なし)

[歳入]

<小松委員>

生活保護費返還金が生じる主な理由は何か。

<地域福祉課長>

申請当初に説明しているが、故意ではなく、年金収入が遡及して支給される場合や課税調査時に収入が基準を超過した場合などであり、防止することは難しい。

<小松委員>

悪質なケースはどのくらいあるか。

<地域福祉課長>

令和元年で約600万円あるが、1件で何年分も遡及する場合もあるので、一概に測ることは難しい。

～15:39

(2) 第9号議案 令和元年度亀岡市介護保険事業特別会計決算認定

<健康福祉部長>

(概要説明)

<高齢福祉課長>

(資料に基づき説明)

～16:05

[質疑]

<長澤委員>

京都府を通じて国に改善の要望を行う際、福祉関係の内容だけを個別に行う機会はあるか。

<高齢福祉課長>

介護保険制度については、市長会の要望事項として国に要望する機会がある。

～16:32

(3) 第8号議案 令和元年度亀岡市休日診療事業特別会計決算認定

<健康福祉部長>

(概要説明)

<健康増進課長>

(資料に基づき説明)

～16:39

[質疑]

<三宅委員>

医師の出勤体制はとれているか。

<健康増進課長>

常に医師会が責任をもって体制を組んでいる。

散会 ～16:41